

各位

上場会社名 株式会社 オーイー・システム・プラザ
 代表者 代表取締役社長 長谷川 泰規
 (コード番号 7491)
 問合せ先責任者 取締役管理本部長兼総務部部长 岡田 晃生
 (TEL 052-263-8650)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年4月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年2月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年3月1日～平成21年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,412	65	38	51	1.33
今回発表予想(B)	4,108	49	26	△13	△0.34
増減額(B-A)	△304	△16	△12	△64	
増減率(%)	△6.9	△24.6	△31.6	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年2月期第2四半期)	6,006	△70	△99	△691	△17.63

平成22年2月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年3月1日～平成22年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,200	113	59	64	1.66
今回発表予想(B)	8,215	7	△40	△91	△2.33
増減額(B-A)	△985	△106	△99	△155	
増減率(%)	△10.7	△93.8	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年2月期)	11,543	15	△40	△1,173	△29.95

平成22年2月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年3月1日～平成21年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,213	69	46	91	2.34
今回発表予想(B)	3,042	117	98	91	2.32
増減額(B-A)	△171	48	52	0	
増減率(%)	△5.3	69.6	113.0	0.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年2月期第2四半期)	3,359	32	6	△573	△14.62

平成22年2月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年3月1日～平成22年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,646	60	14	52	1.34
今回発表予想(B)	6,053	83	42	25	0.66
増減額(B-A)	△593	23	28	△27	
増減率(%)	△8.9	38.3	200.0	△51.9	
(ご参考)前期実績 (平成21年2月期)	6,824	180	134	△1,035	△26.41

修正の理由

(1) 第2四半期累計期間(連結)

パソコン業界におきましては、インターネット利用を主な利用目的に絞った5万円前後の低価格小型ノートパソコンの発売によりパソコン本体の平均単価は大幅な下落傾向にあり、またJEITA(電子情報技術産業協会)によりますと、今年4月から8月迄の累計で国内のパソコン出荷金額は前年比75.3%となりました。一方当社PC販売事業のPCDEPOT店舗における第2四半期連結累計期間(3月～8月の6ヶ月間)の状況としまして、第1四半期連結会計期間は比較的好調に推移しましたが、第2四半期連結会計期間につきましては、「エコポイント制度」が始まったものの、限られた可処分所得の中での購買傾向としてエコポイントの対象である薄型テレビ等に消費が集中し、またマイクロソフト社の新OSである「Windows7」が10月22日に発売を予定していることもあり一部では買い控えの傾向が見られ、6月～8月の3ヶ月間の販売台数前年同期比は127%と前年を越えているものの伸びが鈍化していることから、売上は計画におよびませんでした。

IT・デジタルメディア・コンテンツ事業におきましては、国内市場の景気低迷により企業の経費削減傾向が一層強まり、広告宣伝費などの販売促進費にかかる費用を圧縮する動きが見られたことにより売上は減少しました。営業利益及び経常利益につきましては、PC販売事業において物販売上の減少を補うべく、お客様にパソコンを安心・安全に利用して頂ける月額定額制の保守型サービスや、モバイルデータ通信・ウイルス対策・設定やサポートなどを一括してソリューション提供する「イーモバイルバリューパック」の会員獲得を積極的に進め利益増に努めた結果好調であったものの、IT・デジタルメディア・コンテンツ事業は売上減に伴う利益の減少を受け、組織の再構築を行って販売管理費の削減に努めましたが、第2四半期連結累計期間において利益が低迷いたしました。純利益につきましては、特別損失として投資有価証券評価損(59百万円)が発生しました。以上の結果により当初予想を下回る見込みであります。

(2) 通期業績(連結)

売上高につきましては、PC販売事業において、10月22日にはマイクロソフト社の新OSである「Windows7」の発売が予定されており、新OS発売に伴う一定の需要増が見込まれます。ただし、小売業を取り巻く市場環境としては更なる個人消費の低迷が懸念されることに加え、下期の新規出店について当社基準における出店条件に見合う出店候補地が見つからず、出店が困難な状況のため、売上の減少が予想されます。

不動産賃貸事業につきましては、不況による一部テナントの退去などにより収入が減る傾向にあります。

またIT・デジタルメディア・コンテンツ事業においては、広告等の受注減が予想されることから、既存クライアントの売上維持および新規顧客の開拓を進めてまいります。

営業利益及び経常利益につきましては、IT・デジタルメディア・コンテンツ事業において組織の再構築を行っており、これにより販売管理費の削減効果が出始めておりますが、売上の減少による利益減の影響が予想されます。純利益につきましても、同様の理由及び投資有価証券評価損として59百万円を特別損失として計上したことにより、上記の通り修正いたします。

(3) 第2四半期累計期間(個別)

売上高につきましては、上記連結の業績見込みに記載した同様の理由により、計画におよびませんでした。

営業利益及び経常利益につきましては、物販売上の減少を補うべく、お客様にパソコンを安心・安全に利用して頂ける月額定額制の保守型サービスや、モバイルデータ通信・ウイルス対策・設定やサポートなどを一括してソリューション提供する「イーモバイルバリューパック」の会員獲得を積極的に進め利益増に努めた結果、予想を上回る見込みです。純利益につきましては営業・経常利益は予想より上回るものの、投資有価証券評価損として59百万円を特別損失として計上したことによりおおむね予想どおりとなる見込みであります。

(4) 通期業績(個別)

上記連結の業績見込みに記載した同様の理由により、売上高につきましては予想を下回るものの、営業利益及び経常利益につきましては、上記第2四半期累計期間(個別)に記載のとおりサービス部門の強化により予想を上回ることが見込まれます。純利益につきましては営業・経常利益は予想より上回るものの、投資有価証券評価損として59百万円を特別損失として計上したことにより上記の通り修正いたします。

業績予想数値につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上